

妙高ヒルクライム2023

名だたるマシン集結

公道コース疾走

アパリゾート
上越 妙高

モータースポーツイベント「妙高ヒルクライム2023」が14、15の両日、妙高市桶海のアパリゾート上越妙高で行われた。今年で7回目。全国各地から名だたるレーシングカーやスポーツカーなど総勢60台のマシンが集結し、使用許可を得た公道コースを疾走。愛好者らの注目を集めた。

初日は妙高山を望む絶好のコンディションに。スーパーカーから小型車まで国内外の名車が全長約20キロのコースに挑んだ。会場には

ポルシェ・カップ優勝車、高級車のロールスロイス、大型レーシング・トレーラーなどが展示された。F1技術が導入されたマクラーレンのマシンで参加した東京都港区の男性(68)は「日本で最高の環境では。爽快感があつて気持ち良い」と話した。

親子で観戦した妙高市関山の男性(43)は「迫力、音がすごい」と感動。主催したNASCの中島聡尚代表(68)は地元協力の感謝し、「10回目まではやり、地域おこしのお役にも立てれば」と願った。



疾走するマクラーレンのスーパーカー



全国各地から総勢60台が集結し行われた「妙高ヒルクライム2023」



妙高山を望む地に全長約20キロの公道コースが設けられた

みょうとうこう

地理しる

<12>

記者、みて歩き

関山神社から国指定名勝の「旧関山宝蔵院庭園」まで足を延ばす。妙高山を礼拝する山岳信仰の庭園。山容を正面に配し、池や滝、築山、石組みの

景観を一体化した構成になっている。庭園の周遊自体が霊山・妙高の疑似登山を意味すると知り、真摯(しんし)に見学した。

江戸時代後期の姿に修繕整備された庭園。院主と同じ視界で妙高山を眺める



山岳信仰と栄華を今に

旧関山宝蔵院庭園



はら
ごち
地こ

江戸時代に妙高山一帯を所領として治めた宝蔵院の寺坊庭園。文献に基づき、江戸時代後期の姿に修復整備された。現在の視界は、今はない建物の居間から、院主のみ眺めることができたもの。歴代院主の墓所があり、かつての栄華をしのぶ。関山地区の有志は資料冊子の作製、ボランティアガイド、御膳料理の再現など、歴史文化の伝承に努めている。